

神経幹細胞の運命制御

私達の脳は、非常に多様な種類のニューロンやグリア細胞から構成されている。これらの細胞は共通の前駆細胞「神経幹細胞」から作り出されるが、決してランダムに作られる訳ではない。必要な細胞の種類が必要な数生み出され、それらが正しい場所に配置されることが、脳の正常な機能において必須である。それでは、神経幹細胞はどのように生み出す細胞の種類と数を決めているのでしょうか。また私達の脳は、成体になってからも特定の場所でのみ新しいニューロンを作り続けており、これらの新生ニューロンは記憶や学習といった適応応答に重要な役割を果たすと考えられている。しかし成体神経幹細胞が胎生期にどのように形成されるかについては不明であった。今回の会では、胎生期神経幹細胞の運命制御および成体期神経幹細胞の形成起源について述べたい。また初期神経発生と自閉症の関連など、進行中のプロジェクトについても時間があればお話させていただきたい。



後藤 由季子 先生

Yukiko Gotoh, Ph.D.

東京大学大学院薬学系研究科 / 教授

Department of Pharmacy, University of Tokyo / Professor

講演者略歴

1992年 東京大学理学系研究科生物科学専攻 修了(理学博士)
1991年 日本学術振興会特別研究員、1993年 京都大学ウイルス研究所 助手
1996年 Fred Hutchinson Cancer Research Center 研究員
1997年 Harvard Medical School/Children's Hospital 研究員
1999年 東京大学分子細胞生物学研究所 助教授
2005年4月～2013年9月 東京大学分子細胞生物学研究所 教授を経て、2013年より現職に至る。
また、2002年9～2005年 岡崎国立共同研究機構生理学 研究所客員、
2003年～2006年 国立遺伝学研究所 客員を併任。